
繰り返す発熱へのアプローチ -免疫不全を見逃さないために-

和田 泰三

金沢大学 医薬保健研究域医学系 小児科学

発熱は、小児の診療をする中で最も多い訴えの一つである。乳幼児では感染症に伴って発熱することが多く、特に早期から集団生活を送っている児では発熱を繰り返す場合も多い。迅速抗原検査を含めた小児科外来での丁寧な診察が行われても、すべての症例で発熱の原因を正確に診断することは容易ではない。発熱が繰り返される場合、全身状態のよい児では一般的な感染症を単純に繰り返していることが大半で、基本的に特別な精査や加療は必要ない。しかし、感染症の背後に重篤な基礎疾患が隠れている場合や感染症以外で発熱を繰り返している場合などがまれに認められる。背景疾患としては、生まれつき免疫の弱い原発性免疫不全症が最も重要である。原発性免疫不全症には500以上の疾患が知られているが、易感性以外に多彩な症状を示すことが明らかにされ、最近では先天性免疫異常症と呼ばれることが多くなっている。ここ数年、最重症型の重症複合免疫不全症は拡大新生児マスククリーニングで発見されるようになってきているが、発熱を繰り返す児の中に診断されていない先天性免疫異常症が隠れている場合があると考えられる。一方、感染症以外で発熱する代表的な疾患が悪性腫瘍、リウマチ・膠原病であるが、最近、周期性発熱症候群、自己炎症性疾患も注目されている。本講演ではそのような見逃したくないケースに対するアプローチを概説する。